特集「並列処理」の編集にあたって

牛島 和夫†

1989 年の掉尾を締めくくる論文誌を，「並列処理」特集号としてまとめることができた．並列処理の研究は最近非常に活発に行われている．国際的にも国内的にも多くの研究が，様々な観点から行われているのが最近の傾向である．本年2月2日から3日間にわたって熱海で開催された並列処理シンポジウム JSPP '89 (Joint Symposium on Parallel Processing '89) は，このような動向を踏まえて，基礎理論，アーキテクチャ，ソフトウェア，応用等の各分野の横断的な結びつきを目指して，情報処理学会の5つの研究会，すなわち，アルゴリズム研究会，オペレーティングシステム研究会，計算機アーキテクチャ研究会，数値解析研究会，プログラミング言語研究会と，電子情報通信学会のコンピュータシステム研究会の共催という形で企画された．同シンポジウムには 71 件の応募があり，そのうちから採録された 50 件の論文発表に，3件のパネル討論を加えて，170 人を越す参加者の間で熱心な討論が交わされた．本号を構成する論文は，50 論文の中から同シンポジウム実行委員会によって推薦された優秀論文（和文 14 編，英文 2 編）に基づいている．

論文誌編集委員会では，推薦論文の使用言語が日英2か国語にわたっていることに鑑み，欧文誌編集委員会と協議した結果，「並列処理」特集を論文誌と欧文誌の連携企画として，和文論文は論文誌に，英文論文は欧文誌に掲載して，いずれもできる限り近い時期に発行しようということになった．推薦された論文の著者には，論文誌の投稿規定に従って，原稿の書き改めをお願いした．査読者の選定は，それぞれの委員会の正規の手続きに基づいて行った．半数以上の論文が査読者からの照会を受け，疑問点を解消し，読みやすく理解しやすいものに書き改められた．限られた期限内に再度にわたる査読を行って公正な判定を下していただいた査読者に感謝したい．結果的に，推薦された和文論文 14 編がすべて採録になり，本特集号をお届けできることになった．

情報処理学会会員の研究発表の場として，全国大会，研究会，各研究会主催のシンポジウム，論文誌，欧文誌などの機関誌がある．その中で論文誌は，どちらかというと会員からの投稿論文を待つという受動的な立場をとってきたように思う．学会活動の基盤は，日常的な研究会活動にある．その活動が会員の中に，広く深く根を張ることによって，学会が活性化し，豊かな成果を得ることが可能になるものと考える．その1つとして，研究会と論文誌編集委員会との連携を密にし，研究会活動が論文誌に反映するような企画，例えば研究会からの提案によって特集を組むなどを，積極的に取り入れることが重要であると編集委員会は考えた．それを受けて，昨年 10 月に論文誌編集委員会委員長名で各研究会主査にご案内を差し上げ，一方，編集委員会側には，それぞれの研究会を担当する委員を割り当てた．ちょうどその頃に，並列処理シンポジウムの準備も精力的に行われていたので，編集委員会側の意を通じておいたところ，これまで述べた経過をたどったものである．

さきに述べたとおり，本シンポジウムは5つの研究会が関係しており，これらの研究会と，論文誌編集委員会との連携は，これによってかなり強まったと考えるが，情報処理学会には，さらに多数の研究会があり，多彩な活動を続けている．今回の特集号を，1つのプロトタイプとみなして，これらの研究会においても，論文誌をうまく活用していただければ幸いである．

研究会からの提案を受け入れると同時に，編集委員会の側からも積極的に働き掛けを行わないと，この種の企画は実を結ばない．論文誌編集委員会委員の構成は，公式的には研究会と無関係である．編集委員の改選にあたっては，候補者の推薦を研究会に依頼するなどの方策を採り，委員会と研究会の交流を密にすることが必要なのではないかと考える．

特集の企画は今回のような形を採るもののほかに，委員会がテーマを決めて公募する形のものもありうる．実際，第 29 巻第2号（1988 年2月）の「画像処理エキスパートシステム」は，そのようにした．この場合でも，テーマの選択には，研究会からの提案や協力が必要なのはいうまでもないであろう．

さて，本特集の論文は，並列処理の広い範囲にわたっており，我が国における並列処理研究の水準を示す指標になっていると考える．次の並列処理シンポジウムは，1990 年5月に計画され，論文の募集が行われている．本特集の発行によって，この分野の研究がますます発展するきっかけになれば，編集に携わったものとして喜びにたえない．

本特集のうち，英文論文2編は欧文誌 JIP Vol. 13 No. 1 に掲載されます．併せてお読みいただきたく，ご案内する次第である．

† 九州大学工学部情報工学科